

図 34-1 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(小5・中2のいる世帯・保護者回答)
(母親が回答者)

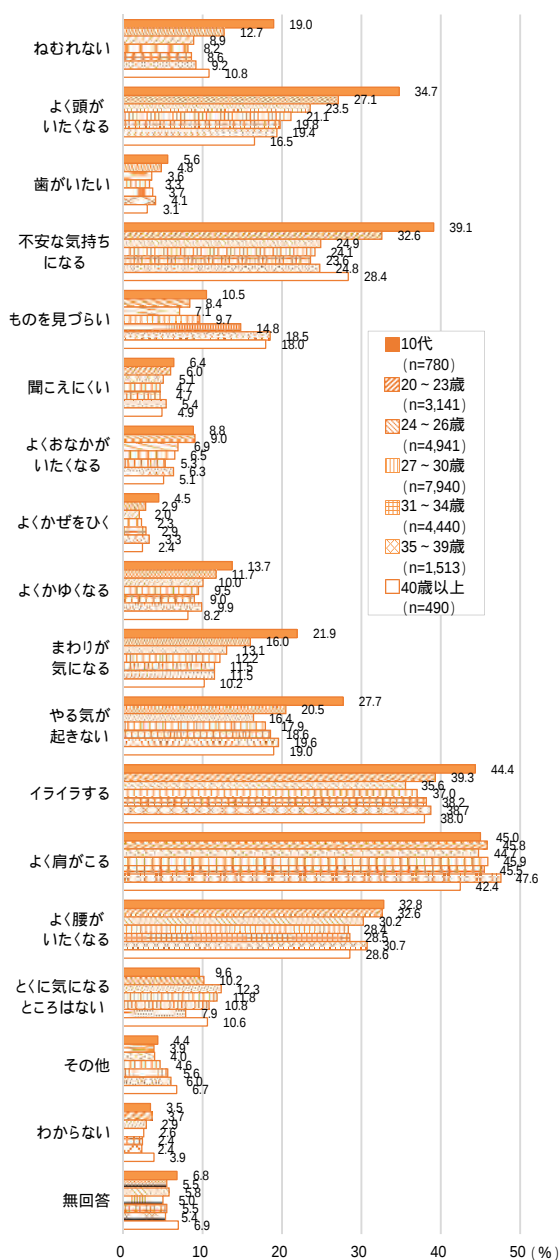
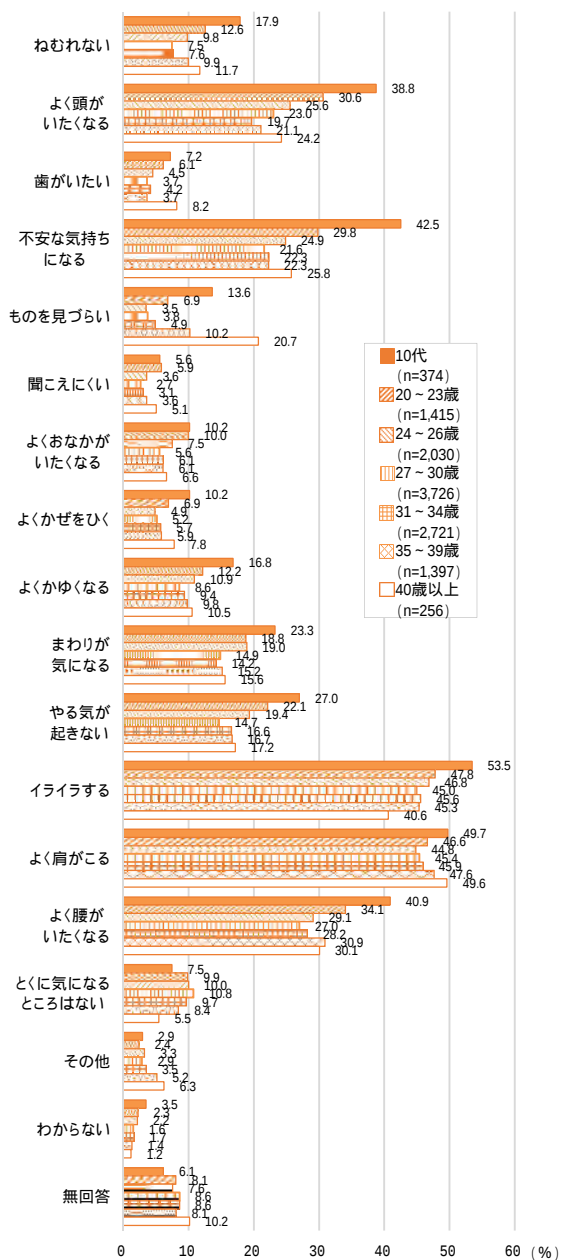


図 34-2 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること(5歳児のいる世帯・保護者回答)
(母親が回答者)



ク 困窮度別に見た保護者の心の状態

(ア) 生活を楽しんでいる

困窮度が高くなるにつれ肯定的な回答の割合が低くなっており、生活を「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の76.3%に対し困窮度 群は 59.5% (図 35-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 81.3%に対し困窮度 群は 69.4% (図 35-2)となっています。

(イ) 将来に「希望が持てる」

将来に「希望が持てる」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 33.8%に対し困窮度 群は 16.8% (図 36-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の

47.3%に対し困窮度 群は 25.8% (図 36-2)となっています。

(ウ) ストレスを発散できるものが「ある」

ストレスを発散できるものが「ある」と回答する割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 43.9%に対し困窮度 群は 29.5% (図 37-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 42.6%に対し困窮度 群は 30.5% (図 37-2)となっています。

(エ) 幸せだと思う

「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、小学校5年生・中学校2年生の保護者では、中央値以上群の 86.0%に対し困窮度 群は 68.1% (図 38-1)、5歳児の保護者では、中央値以上群の 91.1%に対し困窮度 群は 77.7% (図 38-2)となっています。

図 35-1 困窮度別に見た、心の状態(生活を楽しんでいる)
(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

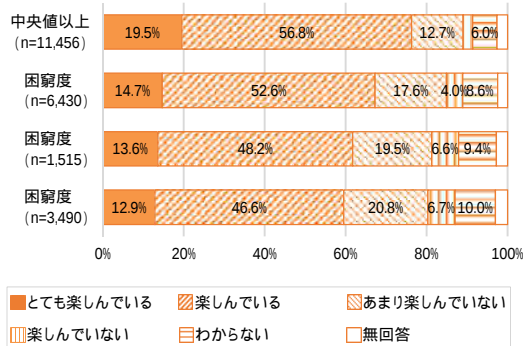


図 35-2 困窮度別に見た、心の状態(生活を楽しんでいる)
(5歳児のいる世帯・保護者回答)

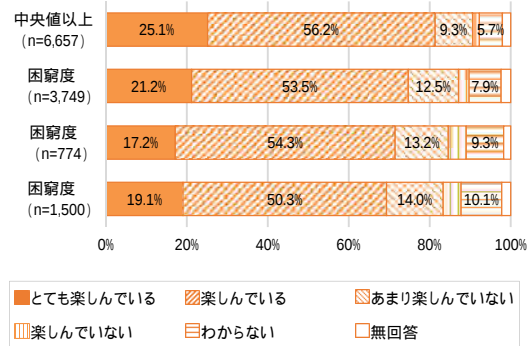


図 36-1 困窮度別に見た、心の状態(将来への希望)
(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

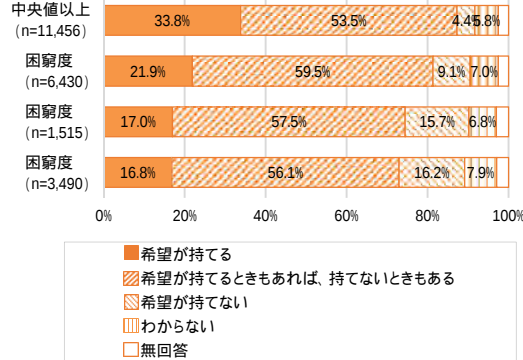


図 36-2 困窮度別に見た、心の状態(将来への希望)
(5歳児のいる世帯・保護者回答)

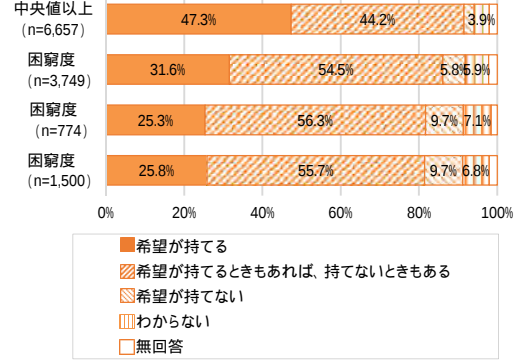


図 37-1 困窮度別に見た、心の状態(ストレスを発散できるもの)
(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

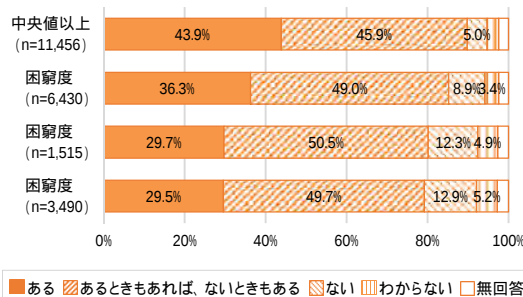


図 37-2 困窮度別に見た、心の状態(ストレスを発散できるもの)
(5歳児のいる世帯・保護者回答)

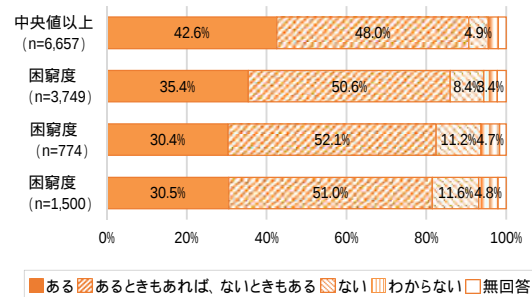


図 38-1 困窮度別に見た、心の状態(幸せだと思う)
(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

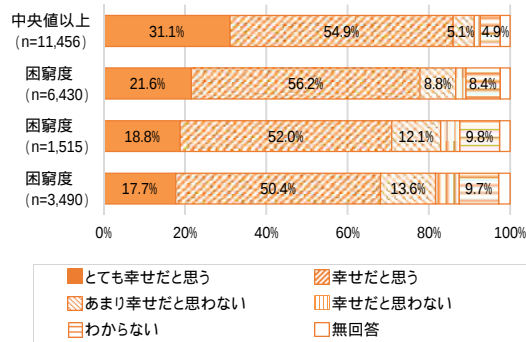
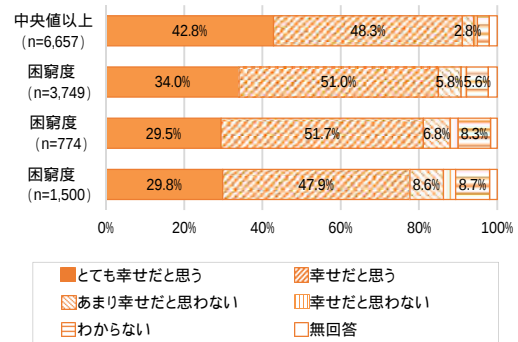


図 38-2 困窮度別に見た、心の状態(幸せだと思う)
(5歳児のいる世帯・保護者回答)



ケ 困窮度別に見た学習の状況

(ア)授業以外の勉強時間

困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 6.8%であるのに対し、困窮度 群では 14.9%となっています(図 39)。

(イ)授業以外の読書時間

困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、中央値以上群では 31.2%であるのに対し、困窮度 群では 37.6%となっています(図 40)。

(ウ)学校の勉強

困窮度が高くなるにつれ「よくわかる」と回答する割合が低くなっており、中央値以上群では 28.8%であるのに対し、困窮度 群では 16.4%となっています(図 41)。

図 39 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間
(小5・中2のいる世帯)

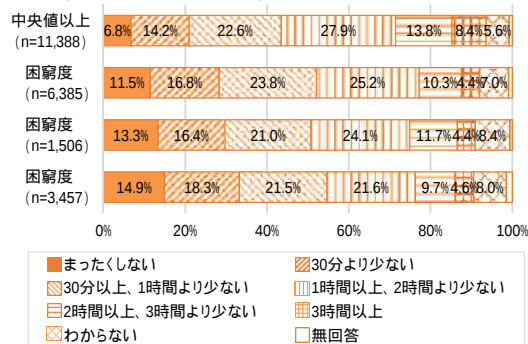


図 40 困窮度別に見た、授業以外の読書時間
(小5・中2のいる世帯)

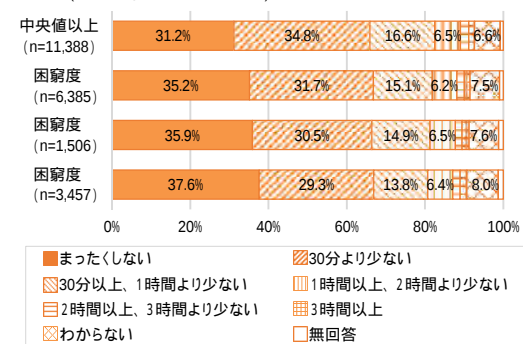
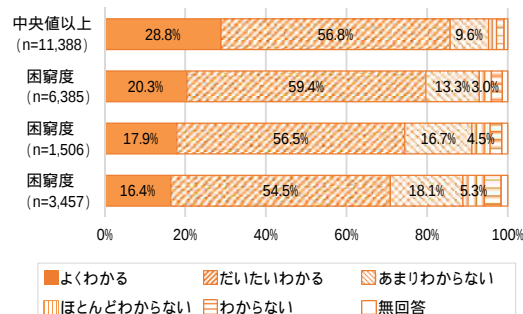


図 41 困窮度別に見た、学習理解度(小5・中2のいる世帯)



コ 生活リズムと学習の状況

(ア)授業以外の勉強時間

「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 8.9%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 21.1% (図 42)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 8.9%であるのに対し、食べない群では 27.4% (図 43)となっています。

(イ)授業以外の読書時間

「まったくしない」と回答する割合は、同じ時刻に起きている群は 33.6%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 44.8% (図 44)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 32.6%であるのに対し、食べない群では 49.5% (図 45)となっています。

(ウ)学校の勉強

「よくわかる」「だいたいわかる」の割合の合計は、同じ時刻に起きている群は 82.4%であるのに対し、同じ時刻に起きていない群では 57.8% (図 46)、毎日またはほとんど毎日朝食を食べている群は 82.6%であるのに対し、食べない群では 51.1% (図 47)となっています。

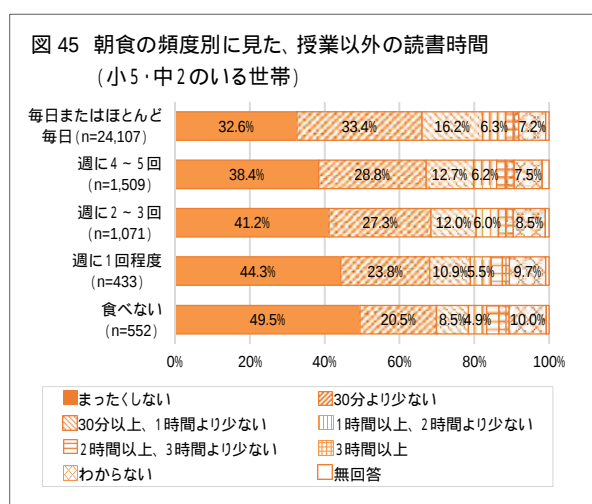
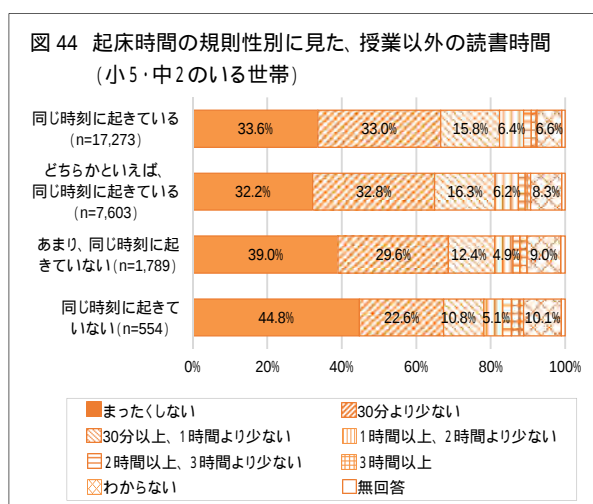
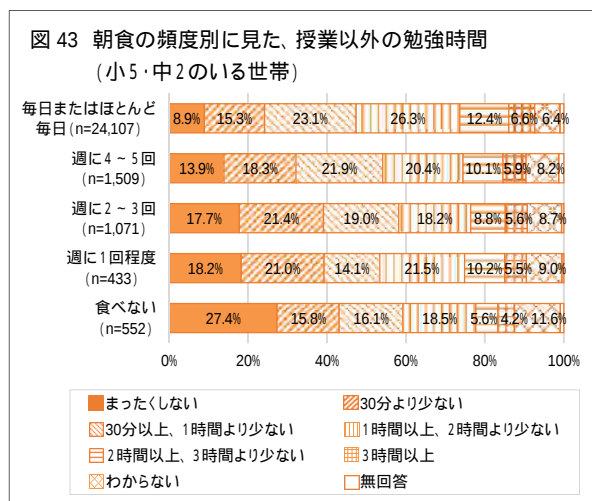
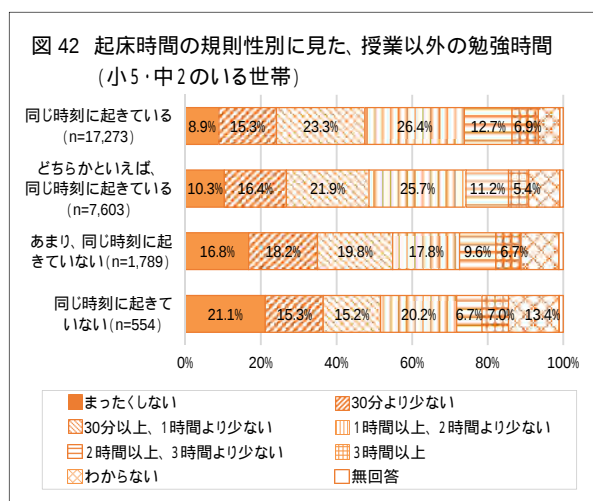


図 46 起床時間の規則性別に見た、学習理解度
(小5・中2のいる世帯)

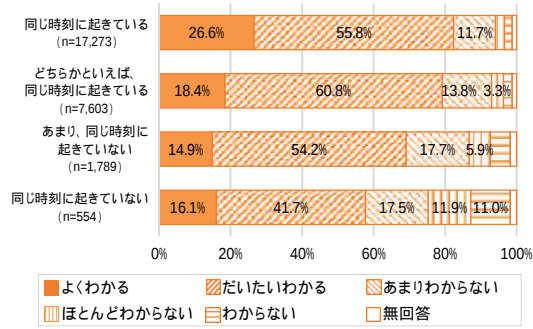
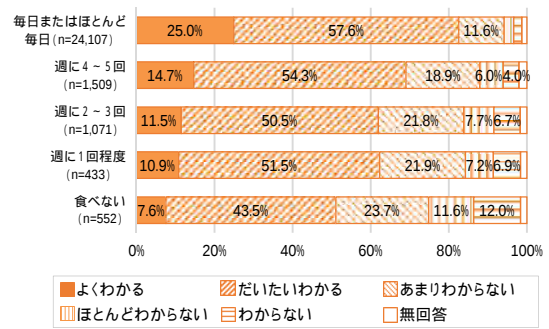


図 47 朝食の頻度別に見た、学習理解度
(小5・中2のいる世帯)



サ こどもが希望する進学先

(ア) 困窮度別

困窮度が高くなるにつれ、大学・短期大学への進学を希望する割合が低く、中学校又は高等学校を希望する割合が高くなっています。高等学校を希望する割合は中央値以上群では 11.0% であるのに対し困窮度 群では 24.1%、大学・短期大学を希望する割合は、中央値以上群では 43.9% であるのに対し困窮度 群では 29.8% となっています(図 48)。

(イ) 保護者の最終学歴別

母親、父親ともに、最終学歴が中学校卒業又は高等学校中途退学の場合、中学校又は高等学校を希望する割合が約 30% であるのに対し、母親、父親ともに、最終学歴が大学卒業の場合、中学校又は高等学校を希望する割合は 10% 未満となっています(図 49、図 50)。

図 48 困窮度別に見た、こどもが希望する進学先
(小5・中2のいる世帯)

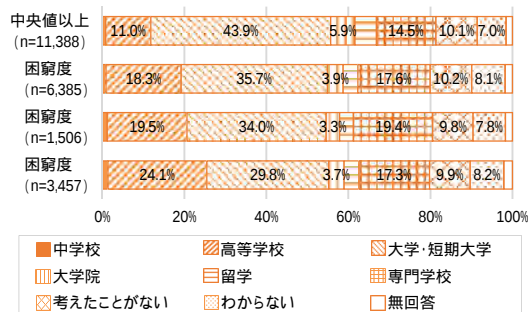


図 49 母親の最終学歴別に見た、こどもが希望する進学先
(小5・中2のいる世帯)

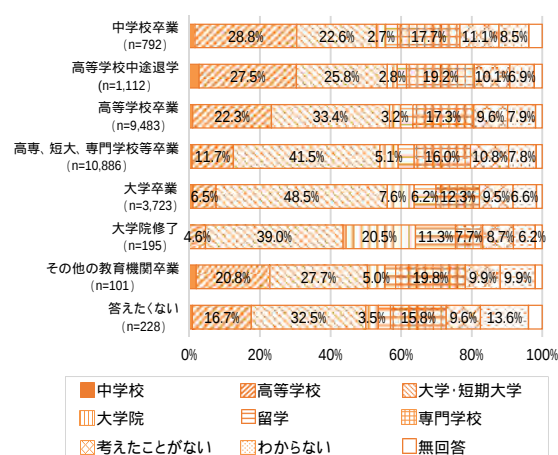
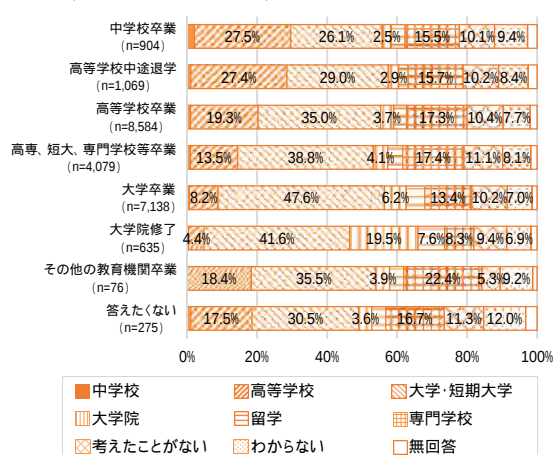


図 50 父親の最終学歴別に見た、こどもが希望する進学先
(小5・中2のいる世帯)

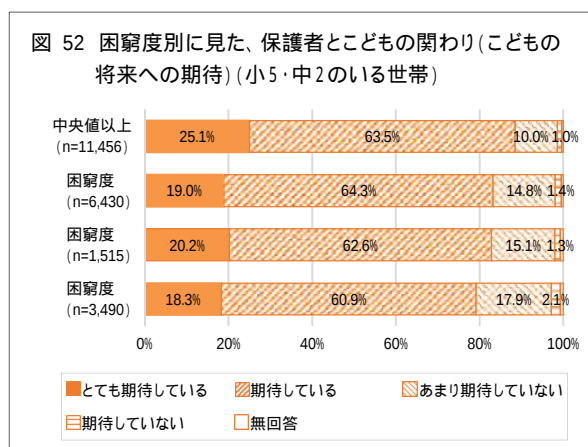
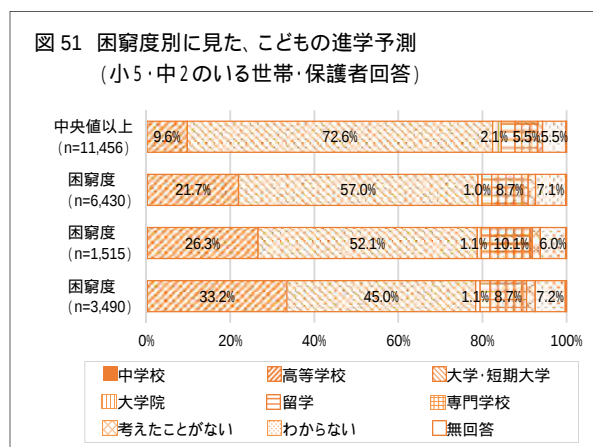


シ 困窮度別に見た保護者のこどもに対する進学予測

困窮度が高くなるにつれ、高等学校卒業までの割合が増えており、中央値以上群では 9.6%であるのに対し、困窮度 群では 33.2%となっています(図 51)。

ス 困窮度別に見た保護者のこどもに対する将来への期待

困窮度が高くなるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」の割合が増えており、中央値以上群では合計が 11.0%であるのに対し、困窮度 群では、20.0%となっています(図 52)



(5) ソーシャルキャピタルの欠如の状況

ア こどもが放課後に一緒に過ごす相手

(ア) 困窮度別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」が中央値以上群では 64.3%であるのに対し困窮度 群では 54.0%、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 24.8%であるのに対し困窮度 群では 13.7%(図 53-1)、中学校2年生の場合、「おうちの人以外の大人」が中央値以上群では 18.1%であるのに対し困窮度 群では 11.9%、「クラブ活動の仲間」が中央値以上群では 72.7%であるのに対し困窮度 群では 63.8%(図 53-2)となっています。

(イ) 世帯構成別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 65.6%であるのに対し、父子世帯では 49.4%、母子世帯では 51.3%、「きょうだい」がふたり親世帯では 50.2%であるのに対し、父子世帯では 36.7%、母子世帯では 38.5%(図 54-1)、中学校2年生の場合、「おうちの大人の人」がふたり親世帯では 54.0%であるのに対し、父子世帯では 42.3%、母子世帯では 46.7%、「きょうだい」がふたり親世帯では 40.6%であるのに対し、父子世帯では 26.5%、母子世帯では 31.5%、「クラブ活動の仲間」がふたり親世帯では 71.4%であるのに対し、父子世帯では 64.2%、母子世帯では 62.7%、「ひとりである」がふたり親世帯では 16.9%であるのに対し、父子世帯では 27.7%、母子世帯では 24.0%(図 54-2)となっています。

(ウ) こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感

こどもが放課後一人で過ごすかどうかと、こどもの自己効力感を見ると、「ひとりである」群の方が、「ひとりではない」群よりも自己効力感が低くなっています(図 55)。